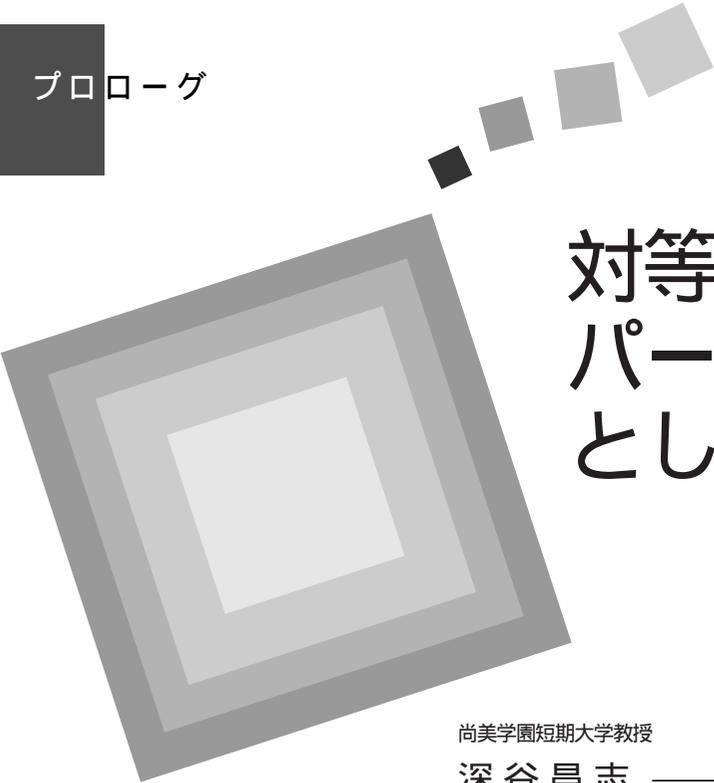


プロローグ



対等の パートナー としての親

尚美学園短期大学教授

深谷昌志

表面的には親たちがうまくいっているように見えるが、実際のところ、学校は親を敬遠し、親も学校に近づきにくいものを感じている。そうした学校が少なくないような気がする。

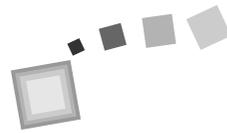
先生たちによれば、親の中に身勝手な人が少なくない。学校に文句をつけるだけで、学校の立場をわかろうとしない親が増えているという。そうだろうと感じる反面、学校が親ともう少しくまつき合えないのかとも思う。

中学生の親を対象とした今回の調査によれば、①多くの親は子どもの通う学校に好意的な評価を与えていた、②校則などについての親の意見は学校側を基本的に支持している、

③学校改革については現状を変えたくないと思っている者が多く、急進的な改革を考えている人は少数にとどまる、④ただし、学校の仕事にはあまり参加したくないと思っている人が多い、などの傾向が得られた。

多くの教師が考えている以上に、親たちは学校を信頼している。それだけに、学校は親を信頼し、もう少し積極的に親を対等のパートナーとして学校の中に位置づけてはどうか。現在の親たちは積極的に学校にかかわり合いたくないと思っているが、学校の対応によっては態度を変える可能性を感じる。中学生は指導がむずかしい年齢だけに、学校と家庭とが手を取り合って子どもの健全育成を目指す形が望まれよう。

親たちの学校参加をどう考えたらよいか



ア アメリカの学校で

親たちの学校参加というと、20年以上昔にはじめてアメリカの学校を訪ねたときを思い起こす。教室にたくさんのおとながいて、誰が教師なのかわからない。聞いてみると、何人かは親、他は専門の教師や補助教員だという。

担任がその時間子どもごとの学習計画を立て、指導プログラムを作成する。専門の教師はともあれ、親たちに対しては担任が指導の計画を作り、それにしたがって指導してもらう形である。したがって、親たちの指導は担任に対する協力の範囲にとどまっている。

こうした親の協力をどういう形で仰いでいるのかを尋ねてみた。学年始めに担任から親たちの協力を求めたい活動を提出させる。「月曜の10時から40分、音楽の時間にピアノを弾いてもらう」「読みの遅れた子どものために週2回、音読の相手になる人」などである。校長は、そのリストを学校全体の形でまとめ、PTAに知らせる。親がそれを見て、協力したい活動があれば申し出るという。

これは、1つの事例で、同じ地域でも他の学校へ行くと、親の姿のまったく見られない場合もある。アメリカの学校は10校を見学すると、10通りの学校に出会う。それと同じように、アメリカの学校では親たちが積極的に学校作りに参加しているのは共通しているが、具体的な親の学校への協力にもいろいろなスタイルがみられる。

地域の人はずっと子どもが在籍していなくても、希望すればPTAのメンバーになれる。学校

の維持会員という感じである。そして、会員はバッジを持っていて、それを見せれば、学校内をいつでもどこでも見学できるきまりである。その学校を訪ねたとき、われわれも1ドルを払って、「臨時会員」のワッペンをもらい、校内を見学した。この学校では月に1回、夕方から会員を対象とした学校についての説明会を開き、会員の声を定期的に聞く制度を大事にしていた。

また、別の学校では地元に住むプロフットボールのQBやオーケストラのコンサートマスター、詩人などがボランティアの形で月に1度程度の割合で学校の講師を引き受けていた。そうした一方、バザーやオークションを開いて、基金を集め、後援会的な動きをしている学校もあった。

いずれにせよ、学校が親たちを学校経営のパートナーと考え、親の意向を尊重して学校を運営している態度が印象的だった。

決 定権を持った親

それから毎年のように海外の学校を見学してきた。そして、欧米の場合、学校に親を積極的に参加させるのがアメリカで、ヨーロッパは学校と親のすることを分け、学校内に親が関与しない事例が多いのがわかってきた。

そうした中で、このところ、多くの社会で、学校運営にあたり、親たちの権限が強まる傾向が目につく。

1992年にニュージーランドを訪ねたとき、学校評議会の導入で学校が大騒ぎだった。小学校から高校までのすべての学校に評議会を作る。評議会の構成は学校の規模にもよるが、

親の代表が5名、それに校長、教員の代表1名、地域の専門家2名が標準で、親の代表は子どもの親権者の投票により選出される。そして、評議会は学校の最高の決議機関で、校長の任命や予算の決定などを行う。その際、校長は教員集団の代表としての専門的な立場から親の委員に助言することが期待されている。

評議会に限らず、日本人の感覚からすると、ニュージーランドの教育はわかりにくい。小学校の入学の時期が決まっていないので、5歳の誕生日に子どもを入学させる親が多いという。もちろん、クリスマスが終わってからとか、学年始めから入学する子もいる。このように、子どもがバラバラに入学してくる。さらに、入学した子の学力に応じて、学力があると見なされれば、すぐに2年生に進級させるという。そうなると、1年生の学級指導をどうしていくのか見当もつかない。それぞれの子が、その子なりのペースで学力をつける。その場所が「学校」という名だと思えば理解しやすい。なお、学校制度も多様で、初

等教育の年齢を1年短縮し、小学5年から中1（あるいは中2）に相当する年齢の子どもが「中間学校」(インターメディエイト・スクール)に在籍している場合がみられるが、6年制の小学校も少なくない。

多様さを認めた教育で、日本にはなじみにくい話だが、そのニュージーランドでも、親たちが乗り気なわりに、教師からは評議会の導入により学校の格差が広がる、学校の主体性を確保できないなどの批判が強かった。

帰国後、話を聞いてみると、親たちが学校の運営母体の中枢を占める試みはイギリスから始まって、オーストラリアやカナダに波及した。その流れがニュージーランドに達したもので、それほど異色の改革ではないらしい。

1996年にニュージーランドを再び訪ねた。評議会のその後が気になったので、文部省の専門家に話を聞いてみた。評議会のその後は、「うまくいった」学校が3割、「状況が悪化した」学校が3割、「変化なし」が4割という状況の評価だった。地域的に親がまとまって



学校を支える地域では評議会がうまく機能するが、いろいろと問題の多い地域では評議会が学校の足を引っ張る。そして、学校と親とが対立し、文部省が仲裁に入る場合も少なくないという。

それだけに、評議会の評価は半々で、かなりむずかしい問題をはらんでいるように思えた。そうした親の意向を尊重する学校運営はアメリカを中心とした欧米のものと思っていたところ、韓国でも評議会が導入されたという情報が入ってきた。

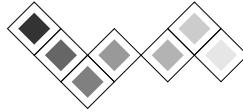
ソウルでは1996年から大がかりな教育改革が開始された。その中で、各小学校に学校の運営方針を審議する委員会が作られることになった。訪ねた学校では、その委員を親から選出するための選挙が行われていた。親の代表と校長、専門家などが企画委員会を作り、遠足の行く先や制服規定など学校の方針を決定するのだという。他の学校では、親たちの学級懇談会の中から選考委員を推薦し、その

人が評議委員を選ぶ間接選挙を試みていた。

1997年現在は、大都市を中心に制度が始まり、いずれ全国的に評議会が作られるという。始めると、全力投球をする面のあるお国柄のようなので、教育改革も本格的に進展するのかもしれない。そして、教育改革の狙いの1つである評議会方式が韓国流の形で根づいていく可能性が高い。

ある学校では塾通いを少なくするため、評議会の賛成のもとに、課外クラブの形で算数や英語の補習教育を始めていた。なお、韓国の評議会はニュージーランドのような校長の任命権はなく、学校の諮問委員会という感じが強い。

こうした傾向を視野に入れると、日本では親たちの意向が学校に反映されていないように思える。子どもの教育に最終の責任を持つのは親だとするなら、学校も親を対等の交渉相手として、学校運営に参加させる方策を講じるべきであろう。



『モノグラフ・中学生の世界』 vol 56

調査レポート

親たちの学校期待

要

約

① サンプルの属性

父親は会社員（62.8%）、母親はパートタイム（41.1%）、子どもは2人（59.0%）、年齢は40代前半（44.3%）の大都市に住む標準的な家庭である。（p.11 表1）

② 子どもの育ち方

子どもは健康面に不安がないし（87.7%）、やさしさもある（83.4%）。しかし、学力面では「順調に」が50.0%と半数にとどまる。（p.13 表4）

③ 生活習慣の自立

食器の後かたづけをはじめ、ほとんど親がかりの生活を送っている。生活習慣の自立が遅れている。（p.14 図1）

④ 学歴期待

4年制大学・大学院に子どもを進学させたい割合は53.2%で、これに短大を含めると準高等教育機関への期待率は76.9%と、4分の3に達する。（p.15 表7）

⑤ 気にかかること

特に気にかかることはないが、「希望の高校に行けないのではないか」という不安を抱いている者が53.5%に達する。（p.16 表9）

⑥ 学校への満足感

「わりと」を含めると、77.6%の親が子どもは学校生活に満足していると思うと答えている。（p.21 表12）

⑦ 授業の理解度

授業の理解度についての評価は親子ともにほとんど一致している。授業（数学）の理解が「半分以下」が親55.3%、子ども59.2%である。（p 22 表13、図3）

⑧ 学校への評価

部活動が盛んで、生活指導も熱心だが、教える力があるユニークな先生が少ないと思っている（p 23 図4、表14）しかし、そうした評価は学校により、かなりの開きが認められる。（p 24 表15）

⑨ 担任への評価

「とても」とは言えないが、「わりと」を含めると、親たちは教師を熱心に授業をし、学級をまとめようとしていると評価している。（p 26 図5、p 27 表17）

⑩ 教師へのサンクション

教師は「競馬や競輪をするべきではない」や「パチンコをするべきではない」などと思っているのは1割前後で、教師に厳しい規制を望む親は多くはない。（p 28 表19）

⑪ いじめ

「子どもが通っている中学校にいじめがあるか」の問いに32.9%があると答えている。しかし、いじめの発生率は、学校差が大きい。（p 31 表21）

⑫ 校則への評価

親たちは校則をおおむね支持している。特に子どもたちより、校則を「当然のきまり」と思う親が多い。（p 33 図6、p 34 表25）

⑬ 学校改革案への評価

「修学旅行の中止」（85.1%）「学力別編成の採用」（68.8%）「部活動を地域へ移す」（59.0%）のように改革案について親たちは反対し、賛成が多いのは「補習教育を始める」の67.0%（「反対」は7.5%）などに限られていた。（p 36 図7、p 37 表27）

⑭ PTAへの参加

「文化祭の手伝い」でも「仕事を休んでも引き受ける」のは5%くらいで、全体的に学校の活動への参加には、消極的な親が多い。（p 40 図8、p 41 表32）

〔調査概要〕

対象 東京都の公立中学校4校の保護者

時期 1996年10月～12月

方法 学校通しによる質問紙調査

サンプル数 母親970名、父親96名、
その他10名、計1,076名

第1章 子どもの育ち方



1 . 子どもの自立 DDD

今回の調査に協力してくれたサンプルは表1に詳しい。東京都下の4つの中学校に協力を求めたが、母親はパートタイムで働き、父親は会社員、年齢は40代前半で、子どもが2人というのがサンプルの平均的なプロフィールである。

年齢的には、団塊の世代の後を追う人たち

で、都市近郊で見かけることが多い平均的な家族のように思える。

本人の自己評価は表2に詳しいが、「体が丈夫」「やる気がある」「好奇心がある」など、全体として、肯定的な自己評価をしている。40代前半の気力に富んだ世代らしい反応である。

表1 サンプルの属性

(%)

母親の仕事	フルタイム 19.0	パートタイム 41.1	専業主婦 23.4	自営業 12.0	その他 4.5
父親の仕事	会社員 62.8	公務員 7.6	自営業 21.6	専門(医者・弁護士) 0.6	その他 7.4
母親の学歴	中学卒 6.1	高校卒 58.1	短大・高等専門学校卒 24.7	4大卒 9.3	その他 1.8
父親の学歴	中学卒 9.6	高校卒 44.5	短大・高等専門学校卒 9.3	4大卒 33.7	その他 2.9
年齢	35歳以下 4.7	36～40歳 29.7	41～45歳 44.3	46～50歳 18.0	51歳以上 3.3
子ども	1人 8.2	2人 59.0	3人 28.1	4人以上 4.7	
教員免許	持っている 9.6		持っていない 90.4		

表2 自己評価

(%)

	とてもそう	かなりそう	小計	あまり そうでない	まったく そうでない
やる気がある	14.3	47.8	62.1	36.5	1.4
体が丈夫	21.9	46.9	68.8	28.3	2.9
好奇心がある	20.7	49.3	70.0	28.3	1.7
社会問題に関心がある	14.4	43.3	57.7	38.7	3.6
友だちが多い	18.2	43.8	62.0	34.5	3.5

そうした中で、どういう子どもが育っているのか。表3から明らかなように、リーダーシップや積極性は欠けるかもしれない。しかし、心がやさしく、校則を守るなどのよい子という評価である。そして、表4でも、「かなり」を含めると、70.6%の親が、「わが子は順調に育った」と思っている。特に、健康や、やさしさは8割以上が順調と評価している。そうした中では、学力に不安を感じている親が半数を占める。

なお、現在の子育てでは、自立の遅れが問題視されている。表5によれば、生活習慣の自立について、「いつも」「ほとんど」親がしている割合がもっとも低い、つまり、親がし

ていない「ふとんのあげおろし」でも51.0%で、「自分の下着の洗濯」は親がかりが94.1%に達する。

今回の調査項目の一部は、中学生にも実施しており、その結果は本モノグラフの「中学生は変わったのか」(vol.51)に収録してある。そこで、生活習慣の自立について、親と子のずれをまとめると、図1(表6)の通りとなる。

当たり前のことながら、子どもたちは親が思うほどには親がかりではないと答えている。それでも、子ども自身も下着の洗濯などは親に頼っているのを認めている。

表3 子どものタイプ 心がやさしい

	(%)				
	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
グループのリーダー格になれる	7.7	21.3	37.0	23.5	10.5
何ごとにも積極的に取り組む	8.0	31.6	36.3	20.6	3.5
こつこつ勉強する	9.4	28.6	22.6	26.8	12.6
自分の将来に希望を持っている	17.8	31.2	36.4	10.8	3.8
友だちづき合いがうまい	18.0	44.4	25.7	9.2	2.7
スポーツが得意だ	20.3	31.6	25.4	15.2	7.5
校則はきちんと守る	35.7	45.4	12.2	5.2	1.5
心がやさしい	35.8	49.3	12.1	2.3	0.5

表4 子どもの育ち方 かなり順調

(%)

	とても順調に育った	かなり順調に育った	小計	あまり思い通りでない	ぜんぜん思い通りでない
学力の面で	10.7	39.3	50.0	42.3	7.7
しつけの面で	13.4	49.7	63.1	33.1	3.8
やる気の面で	14.6	38.0	52.6	41.2	6.2
やさしさの面で	34.8	48.6	83.4	15.1	1.5
健康の面で	43.1	44.6	87.7	11.4	0.9
全体として	12.4	58.2	70.6	27.9	1.5

表5 生活習慣の自立

(%)

	いつも親	ほとんど親	小計	ほとんど自分	いつも自分
自分の食器の後かたづけ	23.4	30.9	54.3	17.3	28.4
ふとんのあげおろし	25.9	25.1	51.0	19.3	29.7
部屋の掃除	30.3	35.1	65.4	21.5	13.1
制服の手入れ	74.1	15.8	89.9	5.9	4.2
自分の下着の洗濯	82.3	11.8	94.1	2.7	3.2
運動着の洗濯	86.4	10.1	96.5	1.6	1.9

図1 生活習慣の自立 × 親・中学生

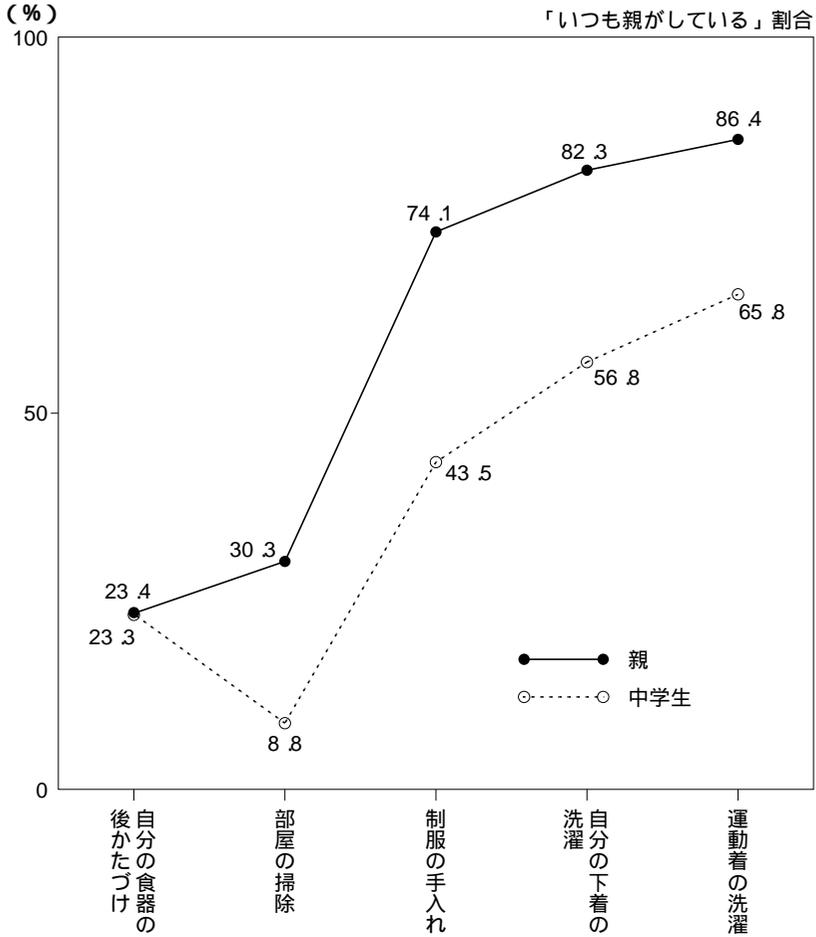


表6 生活習慣の自立についての親子のずれ

	親 (%)	中学生 (%)	差 (%)
自分の食器の後かたづけ	23.4	23.3	0.1
部屋の掃除	30.3	8.8	21.5
制服の手入れ	74.1	43.5	30.6
自分の下着の洗濯	82.3	56.8	25.5
運動着の洗濯	86.4	65.8	20.6

「いつも親がしている」割合

2. 将来への期待 DDD

表7によれば、子どもに持たせたい学歴の程度は「普通の大学まで」が45.8%、これに「難関大学まで」「大学院まで」を加えると53.2%が4年制大学・大学院希望となる。さらに「短大・専門学校まで」を含めれば76.9%が大学に準じるレベルに子どもを進ませたいと

思っている計算になる。

さらに、子どもの将来に対する見通しは表8の通りである。社会的な活躍はむずかしいかもしれないが、よい相手と結婚し(83.5%)、幸せな家庭は作れるだろうと思っている(90.1%)。

表7 学歴期待 大学まで

(%)

	全体	父親	母親
中学まで	0.1	0.0	0.1
高校まで	19.2	19.8	18.9
短大・専門学校まで	23.7	21.9	23.8
普通の大学まで	45.8	45.8	46.1
難関大学まで	5.5	3.1	5.8
大学院まで	1.9	6.3	1.5
その他	3.8	3.1	3.8

表8 子どもの未来像

(%)

	ぜったい可能	たぶん可能	小計	たぶんむずかしい	まったく無理
望み通りの高校へ入れる	5.3	60.8	66.1	31.9	2.0
望み通りの大学へ入れる	2.4	38.5	40.9	46.6	12.5
自分を生かせる仕事につく	4.9	64.5	69.4	29.7	0.9
よい相手と結婚できる	6.4	77.1	83.5	15.8	0.7
幸せな家庭を作る	8.6	81.5	90.1	9.3	0.6
社会的に大活躍をする	3.1	36.6	39.7	53.9	6.4

それと同じように、子どもの将来についての心配ごとは表9に詳しいが、あまり心配していないことがわかる。そうした中で「とても心配」な割合がもっとも高いのが「希望の

高校に行けないのではないか」で、「わりと」を含めると53.5%に達する。

こうしてみると、過保護かもしれないが、子どもは順調に育ってきた。特にこれといっ

表9 気にかかること 進学が心配

(%)

	とても心配	わりと心配	小計	あまり心配でない	まったく心配でない
幸せな家庭が築けない	2.4	10.0	12.4	64.4	23.2
結婚相手が見つからない	3.6	11.3	14.9	60.5	24.6
非行に走る	2.2	12.9	15.1	58.2	26.7
就職しても、長続きしない	4.6	16.1	20.7	57.6	21.7
希望の高校に行けない	16.4	37.1	53.5	38.4	8.1

○は最大値

た心配はないが、学力の伸びがいま一つで、希望の高校に入れないかもしれない。そうした勉強面の不安を感じているのが、多くの親たちの心境のように思われる。

なお、子どもの規範感覚についての評価は表10に示した通りで、親たちは、子どもが「悪いことは悪い」と思っていると信じている。

表10 子どもの規範感覚 崩れていない

(%)

	ぜんぜん 悪くない	あまり 悪くない	小計	少し悪い	かなり 悪い	とても 悪い
他人の自転車に乗る	0.6	0.6	1.2	2.7	17.3	78.8
友だちの優勝を祝ってお酒を飲む	0.8	1.1	1.9	5.5	14.5	78.1
自室でタバコをすう	1.1	0.9	2.0	4.2	13.9	79.9
かるくパーマをかける	2.8	8.2	11.0	19.1	25.6	44.3
ズボンの幅などをきまりより少し変えて登校する	3.0	10.4	13.4	25.4	24.5	36.7
うすいまニキユアをぬる	5.4	9.1	14.5	25.8	21.5	38.2
バスや電車で子ども料金で乗る	4.2	10.8	15.0	41.4	24.5	19.1
夜、友だちの家でおしゃべりをする	5.0	17.1	22.1	31.5	25.2	21.2
自転車の二人乗りをする	7.4	19.7	27.1	40.6	19.0	13.3

○は最大値

もっとも、子どもの回答との比較を試みると、図2（表11）となる。残念ながら、親が思うほどには、子どもは悪いとは思っていない。「友だちの優勝を祝ってお酒を飲む」を

「とても悪い」と思っている親は78.1%だが、そう思っている子どもは27.3%で、両者に50.8%もの開きが認められる。

図2 規範感覚 × 親・中学生

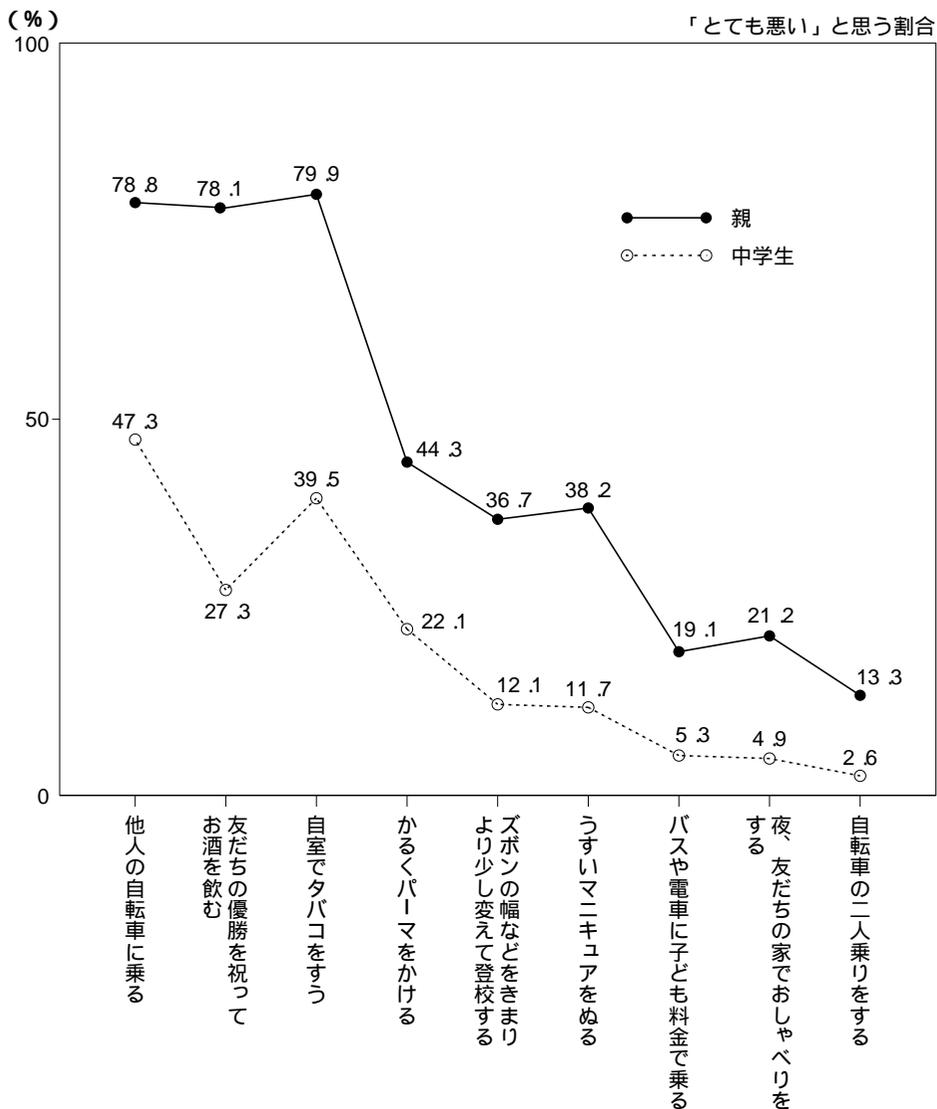


表11 親子の規範感覚 子どもは悪いとは思っていない

(%)

	親	中学生	差
他人の自転車に乗る	78.8	47.3	31.5
友だちの優勝を祝ってお酒を飲む	78.1	27.3	50.8
自室でタバコをすう	79.9	39.5	40.4
かるくパーマをかける	44.3	22.1	22.2
ズボンの幅などをきまりより少し変えて登校する	36.7	12.1	24.6
うすいまニキュアをぬる	38.2	11.7	26.5
バスや電車で子ども料金で乗る	19.1	5.3	13.8
夜、友だちの家でおしゃべりをする	21.2	4.9	16.3
自転車の二人乗りをする	13.3	2.6	10.7

「とても悪い」と思う割合

第2章 中学校への評価



1 . 学校への評価 D D D

それでは、親たちは子どもが学校にどういう気持ちを抱いていると思っているのか。

表12によれば、「わりと」の66.5%を含めて77.6%の親が、子どもは学校に満足していると思うと答えている。

なお、属性別の分析結果によると、仕事の有無では「とても満足している」と思う割合

がもっとも高いのが専業主婦の12.3%である。また、学歴別では中学卒12.1%、高校卒9.3%、短大卒9.1%、4大卒19.3%である。このように、高学歴の母親の評価が高いのが目につく。さらに、年齢別では40歳以下11.8%、41～45歳10.5%、46歳以上11.8%と、年齢による開きは少ない。

表12 学校への満足感 × 母親の属性 わりと満足

(%)

		とても満足している	わりと満足している	あまり満足していない	ぜんぜん満足していない
全体		11.1	66.5	19.9	2.5
仕事	フルタイム	11.3	68.5	18.1	2.1
	パートタイム	11.1	66.0	20.7	2.2
	専業主婦	12.3	65.7	19.5	2.5
	自営業	8.9	68.5	19.0	3.6
学歴	中学卒	12.1	63.8	22.4	1.7
	高校卒	9.3	67.6	20.5	2.6
	短大卒	9.1	71.0	17.7	2.2
	4大卒	19.3	59.1	18.2	3.4
年齢	40歳以下	11.8	65.8	19.5	2.9
	41～45歳	10.5	65.1	21.7	2.7
	46歳以上	11.8	68.4	18.4	1.4

短大卒 = 短大、あるいは高等専門学校卒（以下同）

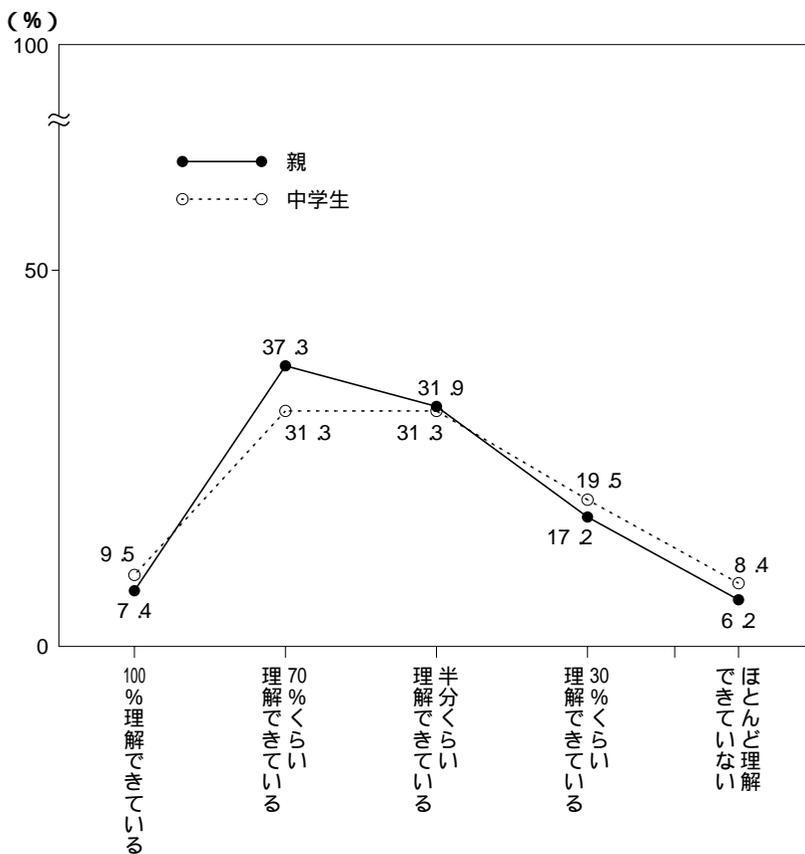
学校の授業の理解度については表13(図3)から明らかなように、数値のちらばりがほとんど一致している。授業(数学)を「100%理

解できている」は親7.4%、子ども9.5%である。そして、「半分くらいあるいは「30%くらい理解できている」と思うのは親

表13 授業の理解度

		(%)				
		100%理解できている	70%くらい理解できている	半分くらい理解できている	30%くらい理解できている	ほとんど理解できていない
英語	親	8.6	37.2	29.7	17.5	7.0
	中学生	9.3	27.5	30.1	19.1	14.0
数学	親	7.4	37.3	31.9	17.2	6.2
	中学生	9.5	31.3	31.3	19.5	8.4
国語	親	6.9	43.2	35.2	11.4	3.3
	中学生	10.0	43.3	34.2	9.8	2.7

図3 授業(数学)の理解度 × 親・中学生



子どもにほぼ半数に達する。

図4（表14）に子どもが通っている中学校への評価をまとめてみた。親たちによれば、部

活動に熱心で、生活指導に力を注いでいる中学校に、おおむね満足している。しかし、教える力があるユニークな先生が少ないという

図4 学校のタイプ

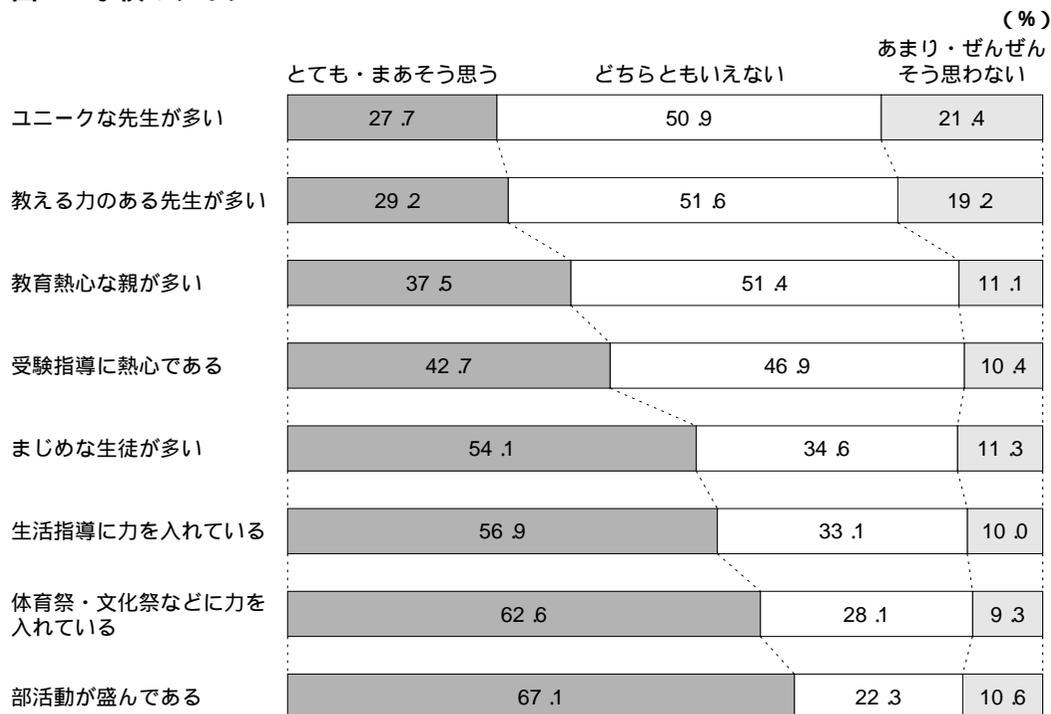


表14 学校のタイプ

	とても そう思う	まあ そう思う	小計	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
ユニークな先生が多い	6.8	20.9	27.7	50.9	16.0	5.4
教える力のある先生が多い	5.0	24.2	29.2	51.6	14.9	4.3
教育熱心な親が多い	6.1	31.4	37.5	51.4	9.1	2.0
受験指導に熱心である	7.3	35.4	42.7	46.9	8.8	1.6
まじめな生徒が多い	5.8	48.3	54.1	34.6	9.2	2.1
生活指導に力を入れている	12.1	44.8	56.9	33.1	7.4	2.6
体育祭・文化祭などに力を入れている	19.0	43.6	62.6	28.1	7.7	1.6
部活動が盛んである	18.0	49.1	67.1	22.3	8.2	2.4

○ は最大値

意見が多い。

ただし、学校評価には学校によって開きがあると思われるので、協力してくれた4校の開きを確かめると、表15の通りである。A校からD校までの評価の中で、それぞれ3位までを示しておこう。

- A校 = ①部活動が盛ん (79.7%)
- ②体育祭・文化祭が盛ん (73.7%)
- ③まじめな生徒が多い (46.0%)
- B校 = ①体育祭・文化祭が盛ん (48.6%)
- ②生活指導に熱心 (28.2%)
- ③部活動が盛ん (25.9%)

- ③受験指導に熱心 (25.9%)
- C校 = ①まじめな生徒が多い (75.0%)
- ②生活指導に熱心 (72.9%)
- ③部活動が盛ん (71.7%)
- D校 = ①体育祭・文化祭が盛ん (81.7%)
- ②部活動が盛ん (74.3%)
- ③生活指導に熱心 (70.6%)

こう見てくると、A校とD校とは部活動が盛んで、体育祭や文化祭が盛んという意味では共通している。それに対し、C校は生活指導に熱心で、まじめな生徒が多い学習意欲の高い学校のように思える。その一方で、B校

表15 学校のタイプ × 学校

	(%)			
	A校	B校	C校	D校
ユニークな先生が多い	22.5	10.3	30.3	40.7
教える力のある先生が多い	16.5	9.9	40.4	36.4
教育熱心な親が多い	25.0	19.0	52.8	37.1
受験指導に熱心である	26.1	25.9	57.0	46.8
まじめな生徒が多い	46.0	16.6	75.0	54.1
生活指導に力を入れている	36.5	28.2	72.9	70.6
体育祭・文化祭などに力を入れている	73.7	48.6	50.8	81.7
部活動が盛んである	79.7	25.9	71.7	74.3

「とても」+「まあ」そう思う割合

は、全体として学校に対する評価が低い。

ここでは、こうした学校差にふれるのが目的ではないので詳しい考察は避けるが、実をいうと、B校とC校は隣接している。そうした学校でもこれくらいの開きがある。したがって、「学校」と一口にまとめないで、個別に学校のあり方を検討する必要がある。

なお、学校に対する評価を属性別にまとめてみた(表16)。各属性の評価の中で、1位は次の通りである。

- 仕事 = フルタイム 部活動が盛ん (69.5%)
- パートタイム 部活動が盛ん (66.6%)

専業主婦 体育祭・文化祭が盛ん

(67.1%)

自営業 部活動が盛ん (67.5%)

学歴 = 中学卒 部活動が盛ん (60.3%)

高校卒 部活動が盛ん (65.8%)

短大卒 部活動が盛ん (71.4%)

4大卒 部活動が盛ん (71.6%)

全体として、母親の属性による開きは少なく、わが子の通う中学を「部活動が盛ん」で「体育祭・文化祭が盛ん」と思っている親が多い。

表16 学校のタイプ × 母親の属性

(%)

	仕事				学歴			
	フルタイム	パートタイム	専業主婦	自営業	中学卒	高校卒	短大卒	4大卒
ユニークな先生が多い	29.4	25.6	28.2	26.7	31.5	27.9	29.4	31.0
教える力のある先生が多い	31.9	25.1	31.6	36.0	22.4	28.4	32.0	28.5
教育熱心な親が多い	38.4	36.2	37.5	39.2	36.2	36.0	38.1	45.4
受験指導に熱心である	50.7	41.3	37.2	44.9	45.8	40.5	43.7	41.8
まじめな生徒が多い	62.1	49.9	53.4	55.1	35.6	54.9	54.5	60.6
生活指導に力を入れている	60.8	55.0	57.4	54.5	45.8	56.5	58.5	58.1
体育祭・文化祭などに力を入れている	59.4	62.1	67.1	61.7	49.1	62.7	66.5	61.5
部活動が盛んである	69.5	66.6	66.2	67.5	60.3	65.8	71.4	71.6

「とても」 + 「まあ」 そう思う割合

2 . 教師に対する評価 D D D

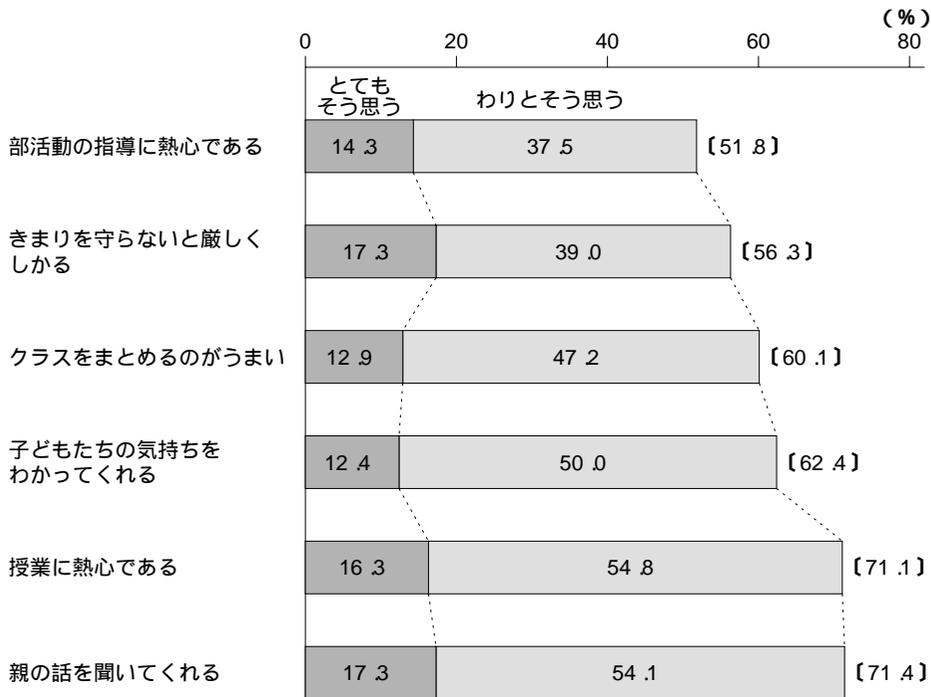
教師に対する親たちの評価は図5（表17）に詳しい。「とても」とはいえないが、「わりと」に注目すると、親たちは教師は熱心に授業をし、学級をまとめていると評価している。

このところ、学校や教師に対する風当たりが強い。しかし、今回のデータによれば、親たちは思ったより温かく学校や教師を見つめている。学校経由の調査なので、学校に遠慮したとも考えられるが、調査票は封をし、学校からデータ処理会社に直送したので、それ

ほど学校の目を意識したとも思えない。個別にあたると、学校は思ったよりよいのであろう。

教師に対する属性別の結果は表18に詳しい。属性による開きはそれほど大きくないが、教師への評価が高いのは、仕事別では専業主婦に多い。また学歴別では、高学歴になるにつれて、教師の評価が高まっている。中でも、高学歴の母親の中に「熱心に授業をしている」と評価している者が少なくない。

図5 担任の先生



〔 〕内は「とても」+「わりと」そう思う割合

表17 担任の先生

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	小計	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない	よく わからない
部活動の指導に熱心である	14.3	37.5	51.8	20.7	3.0	24.5
きまりを守らないと厳しくしかる	17.3	39.0	56.3	26.1	4.5	13.1
クラスをまとめるのがうまい	12.9	47.2	60.1	22.2	4.2	13.5
子どもたちの気持ちをわかってくれる	12.4	50.0	62.4	20.6	4.2	12.8
授業に熱心である	16.3	54.8	71.1	13.9	2.2	12.8
親の話を聞いてくれる	17.3	54.1	71.4	14.7	1.8	12.1

○は最大値

表18 担任の先生 × 母親の属性

(%)

	仕 事				学 歴			
	フル タイム	パート タイム	専業主婦	自営業	中学卒	高校卒	短大卒	4大卒
部活動の指導に熱心である	52.1	50.7	53.1	51.2	47.3	50.1	57.1	48.9
きまりを守らないと厳しくしかる	52.6	55.3	62.8	51.5	56.4	55.2	57.7	61.8
クラスをまとめるのがうまい	58.9	57.6	64.6	60.3	50.9	59.2	62.2	64.1
子どもたちの気持ちをわかってくれる	64.2	57.0	65.6	69.5	51.9	60.4	66.5	63.0
授業に熱心である	73.4	70.1	73.3	69.5	52.0	70.9	73.1	77.5
親の話を聞いてくれる	71.0	70.4	70.9	77.2	63.8	71.7	71.9	72.7

「とても」+「わりと」そう思う割合

なお、教師に対するサンクシオンとはそうしたことをするのは「教師らしくない」と思われている行為を指すが、その結果を表19に示した。教師として、「競馬や競輪をするべきではない」や「パチンコをするべきではな

い」などと、教師に厳しい規制を望む親は1割前後にすぎない。

時代が大きく変わり、教職は聖職でなくなり、ふつうの仕事に近づいた。そうした結果が、サンクシオンの緩やかさになったので

表19 教師へのサンクシオン 聖職感覚はない

(%)

	とても そう思う	かなり そう思う	小計	やや そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
マンガを読むべきではない	1.1	1.8	2.9	6.0	54.1	37.0
離婚をするべきではない	3.3	3.3	6.6	9.1	43.5	40.8
パチンコをするべきではない	3.7	5.2	8.9	15.6	52.6	22.9
競馬・競輪などの賭けごとをするべきではない	6.6	8.6	15.2	23.0	44.5	17.3
きちんとした服装をするべきだ	13.7	14.8	28.5	34.5	24.8	12.2
アルバイトをするべきではない	23.7	16.9	40.6	25.4	24.7	9.3

○は最大値

あろう。

なお、教師の気持ちを親たちに推量させた結果を表20に示した。親たちによれば「宿題を忘れる生徒が多い」と思っているかもしれないが、「部活動の指導が負担」や「生徒

が騒がしい」などと思っている教師はそれほど多くないという。親は教師ではないのだから、教師の気持ちがわからなくても仕方がないと思うが、教師の心のうちを理解してほしいというのは甘にすぎであろうか。

表20 教師の気持ち あまりわからない

(%)

	とても 感じている	かなり 感じている	小計	あまり 感じていない	まったく 感じていない	わからない
教師という職業は自分に向いていない	2.2	5.6	7.8	38.3	8.6	45.3
部活動の指導が負担	6.5	21.3	27.8	34.9	6.2	31.1
生徒が騒がしい	8.3	23.1	31.4	40.2	7.1	21.3
生徒がしらけている	8.3	27.6	35.9	36.5	5.9	21.7
授業以外の仕事が多い	11.0	27.5	38.5	23.5	4.2	33.8
問題を持つ生徒に手を焼いている	13.5	25.9	39.4	32.5	3.3	24.8
生徒の学力差が大きい	7.7	33.1	40.8	32.1	3.1	24.0
宿題を忘れる生徒が多い	12.8	40.6	53.4	22.5	1.3	22.8
年間の授業時間が足りない	15.6	41.6	57.2	20.4	2.3	20.1

設問 = 「先生はどのくらい感じていると思うか」

第3章 中学校とのかかわり



1. 生徒指導をめぐるDDD

中学校の問題は生徒指導にからむものが多い。そこで、いじめについて尋ねてみた。表21のように、子どもの通っている中学校にいじめがあると思う割合は32.9%と、3割を超える。ただし、いじめの発生率は学校によって開きがあり、C校は17.4%なのに、B校は48.9%である。そうした意味では、すでにふれたように、学校別の事例研究の必

要性が感じられる。

表22によれば、わが子がいじめられていると心配している親は22.0%を占める。それに対し、いじているのではと不安を抱いている親は8.7%である(表23)。したがって、いじめは特定の学校の特定の親が心配していることなのではなく、どの学校のどの親も気にかけている問題のように考えられる。

表21 中学校にいじめがあるか × 学校

(%)

	とても あると思う	かなり あると思う	あまり ないと思う	まったく ないと思う
全 体	5.2	27.7	64.8	2.3
C 校	1.5	15.9	79.1	3.5
D 校	2.9	26.3	68.7	2.1
A 校	8.6	42.9	48.5	0.0
B 校	12.2	36.7	48.3	2.8

表22 子どもはいじめられているか

(%)

	とても心配	かなり心配	あまり心配 していない	まったく心配 していない
全 体	5.2	16.8	59.5	18.5
父 親	7.4	25.3	53.6	13.7
母 親	5.0	16.1	60.2	18.7

表23 子どもがいじめているか

(%)

とても不安	かなり不安	あまり 不安でない	まったく 不安でない
2.2	6.5	53.6	37.7

いじめに関連して、校則のありかたが問題になることも多い。そこで、校則への評価を表24に示した。「男子のワイシャツは白」や「下校時刻後の在校は許可証が必要」なども半数以上が「当然のきまり」と答えている。

そして、図6（表25）によれば、子どもたちは校則に、親以上に批判的であり、校則に

ついては親が子どもの説得役という感じがする。

なお、属性別の集計結果を表26に示した。校則の項目別に「当然のきまり」と思っている割合が高い属性と低い属性をまとめると、右のようになる。

表24 校則への評価 校則に好意的

(%)

	当然のきまり	無意味だが 守るべき	無意味だから 守らなくてもよい	すぐになくすべき
男子の髪は丸刈り	3.5	27.5	15.7	53.3
女子の髪は黒いゴムで とめる	11.0	36.0	19.4	33.6
女子の髪は肩まで	21.3	39.0	15.0	24.7
男子のつめえりのホック はとめる	37.0	41.1	13.1	8.8
通学カバンにワッペンな どをはらない	40.3	38.3	11.4	10.0
男子のワイシャツは白	54.6	33.4	5.2	6.8
下校時刻後の在校は許可 証が必要	56.1	30.8	7.6	5.5
髪を染めてはいけない	78.8	13.6	3.3	4.3
職員室への入室は一礼する	76.7	16.5	3.8	3.0
登校は始業時刻の5分前ま でに	84.7	11.7	1.7	1.9

○は最大値

〔当然の決まり〕	〔高い〕	〔低い〕
男子は丸刈り	中学卒	4大卒
女子の髪は黒で結ぶ	専業主婦	4大卒
女子の髪は肩まで	高校卒	4大卒
つめえりのホックはとめる	中学卒	4大卒
カバンにワッペン禁止	専業主婦	フルタイム
男子のワイシャツは白	高校卒	4大卒
居残りは許可証が必要	4大卒	中学卒

髪を染めてはいけない 高校卒 フルタイム
 職員室は一礼して入る 短大卒 4大卒
 登校は授業5分前 専業主婦 高校卒
 こう見てくると、項目にもよるが、数値が高い、つまり、校則に肯定的なのが高校卒や専業主婦、それに対し、校則に否定的なのは4大卒に多い。

図6 校則への評価 × 親・中学生

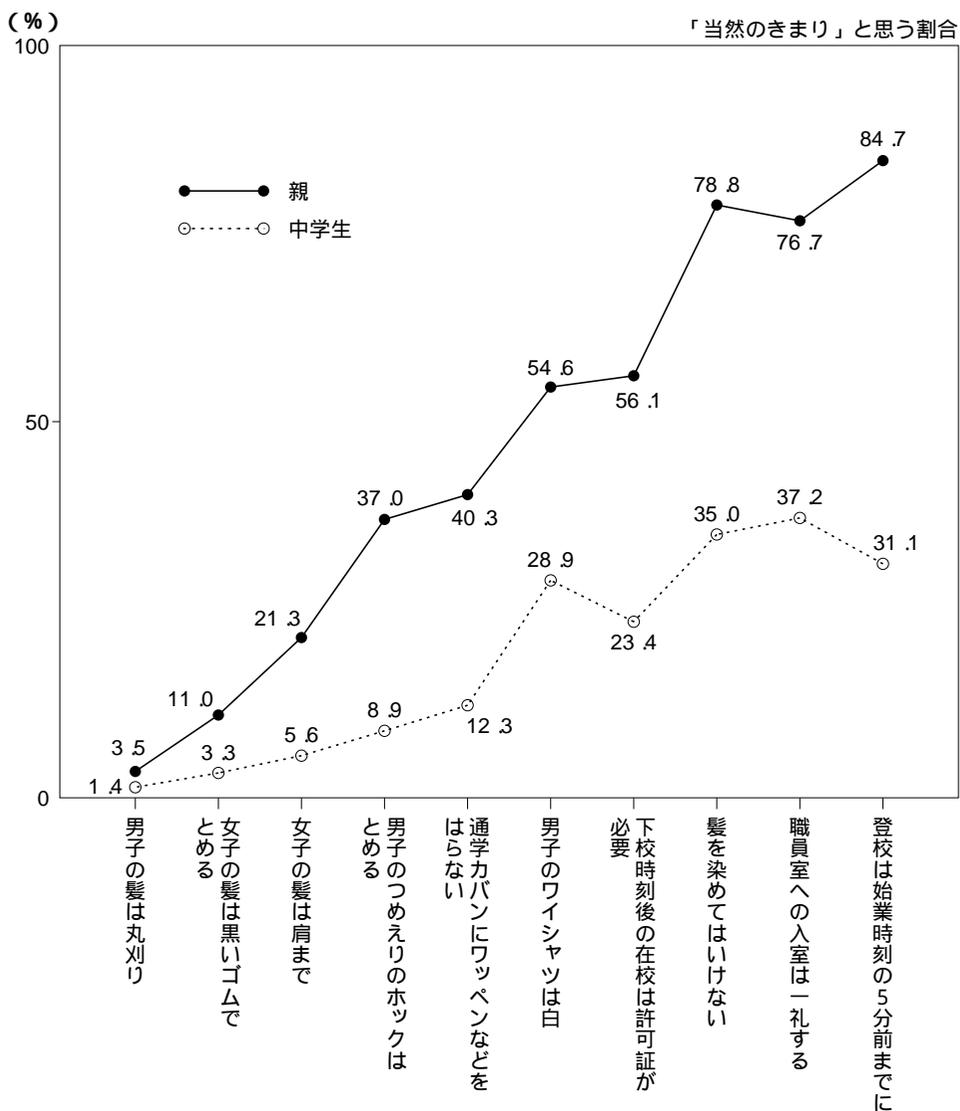


表25 校則への評価の親子のずれ 子どもより校則支持

(%)

	親	中学生	差
男子の髪は丸刈り	3.5	1.4	2.1
女子の髪は黒いゴムでとめる	11.0	3.3	7.7
女子の髪は肩まで	21.3	5.6	15.7
男子のつめえりのホックはとめる	37.0	8.9	28.1
通学カバンにワッペンなどをはらない	40.3	12.3	28.0
男子のワイシャツは白	54.6	28.9	25.7
下校時刻後の在校は許可証が必要	56.1	23.4	32.7
髪を染めてはいけない	78.8	35.0	43.8
職員室への入室は一礼する	76.7	37.2	39.5
登校は始業時刻の5分前までに	84.7	31.1	53.6

「当然のきまり」と思う割合

表26 校則への評価 × 母親の属性

(%)

	仕 事				学 歴			
	フルタイム	パートタイム	専業主婦	自営業	中学卒	高校卒	短大卒	4大卒
男子の髪は丸刈り	3.1	4.3	3.9	4.6	5.4	4.5	1.7	1.1
女子の髪は黒いゴムでとめる	9.9	10.3	13.4	12.8	12.5	12.1	8.2	4.5
女子の髪は肩まで	18.9	20.0	23.6	22.7	19.6	23.7	18.4	15.7
男子のつめえりのホックはとめる	34.7	35.9	40.8	39.1	45.6	37.7	33.8	32.2
通学カバンにワッペンなどをはらない	36.0	38.2	45.0	43.5	36.9	41.1	37.2	38.8
男子のワイシャツは白	50.3	55.3	57.4	56.8	54.4	58.7	53.0	36.4
下校時刻後の在校は許可証が必要	59.0	54.5	56.7	56.3	50.0	58.8	54.3	62.3
髪を染めてはいけない	67.5	68.4	78.6	74.5	71.9	80.8	79.7	69.8
職員室への入室は一礼する	75.0	76.6	77.9	79.3	71.2	78.4	80.2	65.2
登校は始業時刻の5分前までに	90.6	85.8	96.3	85.3	74.1	67.1	85.1	80.9

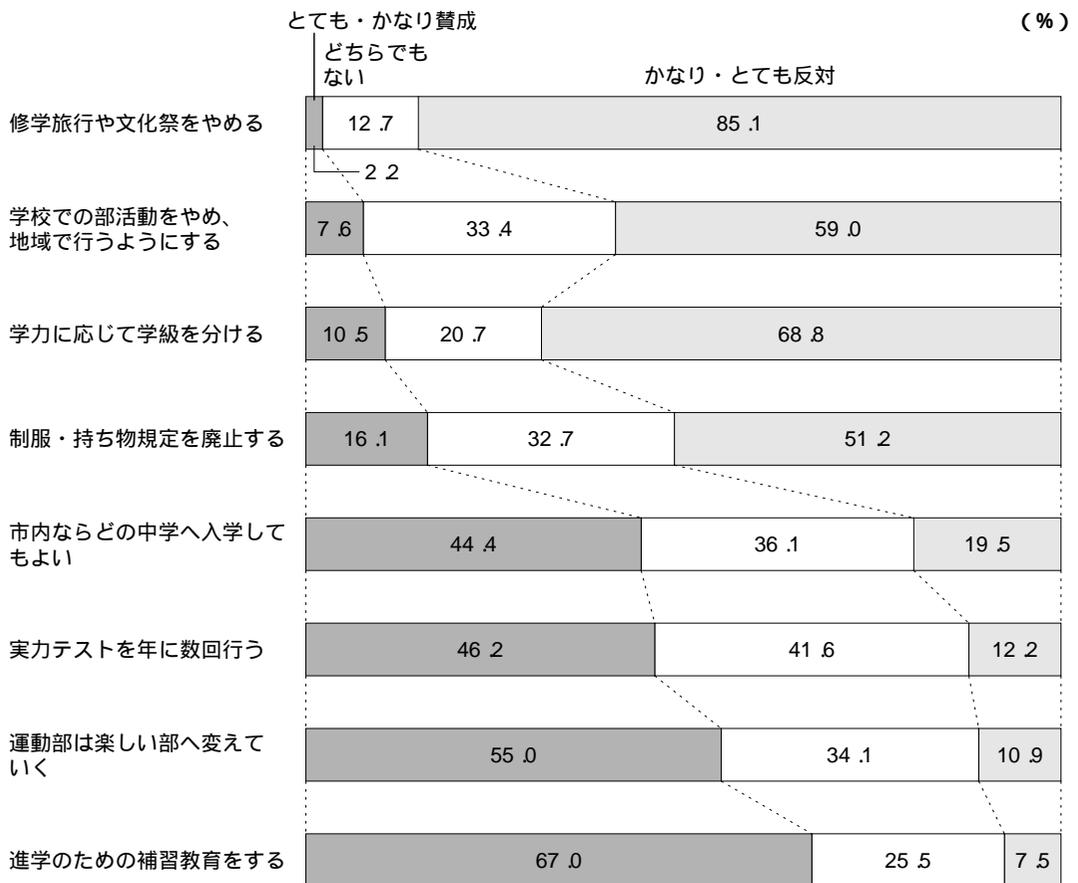
「当然のきまり」と思う割合

2 . 学校改革への意識 D D D

学校のあり方をめぐって、さまざまな改革案が提出されている。図7（表27）にいく

つかの改革案についての親たちの評価をまとめてみた。

図7 学校改革案への評価



親たちの中で賛成が多いのは「進学のための補習教育をする」で、その他の項目の「修学旅行や文化祭をやめる」や「部活動を地域に移す」「学力別編成をする」については、それぞれ85.1%、59.0%、68.8%が「反対」と答えている。そして、賛成者が5割を上回

るのは「進学のための補習教育をする」「運動部は楽しい部へ変えていく」に限られている。

全体として、親たちが学校改革に消極的なのが目につく。現状の教育を変えることに親はあまり乗り気でない。

表27 学校改革案への評価 改革に消極的

(%)

	とても賛成	かなり賛成	小計	どちらでもない	かなり反対	とても反対
修学旅行や文化祭をやめる	1.4	0.8	2.2	12.7	33.6	51.5
学校での部活動をやめ、地域で行うようにする	2.8	4.8	7.6	33.4	32.7	26.3
学力に応じて学級を分ける	2.3	8.2	10.5	20.7	25.5	43.3
制服・持ち物規定を廃止する	5.9	10.2	16.1	32.7	33.4	17.8
市内ならどの中学へ入学してもよい	22.5	21.9	44.4	36.1	11.2	8.3
実力テストを年に数回行う	13.3	32.9	46.2	41.6	7.8	4.4
運動部は楽しい部へ変えていく	23.8	31.2	55.0	34.1	8.6	2.3
進学のための補習教育をする	27.7	39.3	67.0	25.5	3.6	3.9

○は最大値

なお、親たちのこうした評価に学校による開きがあるかを確かめると、表28の通りとなる。学校差はそれほど大きくない。

また、学校改革についての属性別の分析結果は表29である。この中で、賛成率の高い属性を拾いだしてみよう。

修学旅行や文化祭をやめる	中学卒
部活動を地域に移す	4大卒
学力別編成をする	4大卒
制服規定を廃止する	4大卒
市内の中学へ入学可能	フルタイム
実力テストを年に数回行う	4大卒
運動部は楽しい部へ変えていく	4大卒
進学のための補習教育をする	自営業

特に、4大卒は「制服規定の廃止」や「楽しい部活動」を望んでいる割合が高い。

なお、「地域の教育力は低下している」や「親の愛情不足が非行へ走らせる」などの教育についての考え方を表30に掲げた。結果から明らかなように、「わりとそう思う」割合が多く、かなり良識的というか、常識的な教育観を持っている親が多い。

全体として、親たちの教育観はおだやかで、学校関係者が思っているより、現状維持的なように見える。

表28 学校改革案への評価 × 学校

	(%)			
	A校	B校	C校	D校
修学旅行や文化祭をやめる	2.2	3.3	2.4	1.2
学校での部活動をやめ、地域で行うようにする	7.3	5.6	7.7	9.6
学力に応じて学級を分ける	10.6	12.2	9.9	10.0
制服・持ち物規定を廃止する	19.2	12.8	14.4	18.4
市内ならどの中学へ入学してもよい	31.4	41.1	54.4	43.0
実力テストを年に数回行う	29.2	50.9	50.5	52.1
運動部は楽しい部へ変えていく	57.8	63.3	53.9	47.7
進学のための補習教育をする	50.0	74.5	70.2	71.7

「とても」+「かなり」賛成の割合

表29 学校改革案への評価 × 母親の属性

(%)

	仕 事				学 歴			
	フル タイム	パート タイム	専業 主婦	自営業	中学卒	高校卒	短大卒	4大卒
修学旅行や文化祭をやめる	1.5	3.1	1.7	1.8	5.8	1.2	1.7	4.6
学校での部活動をやめ、 地域で行うようにする	8.2	7.4	8.3	7.2	7.6	7.0	4.7	18.2
学力に応じて学級を分ける	13.0	10.2	13.4	7.7	11.9	9.9	7.4	14.6
制服・持ち物規定を廃止 する	19.4	14.8	19.0	13.8	13.8	11.5	17.0	39.8
市内ならどの中学へ入学 してもよい	54.6	49.6	41.5	38.4	39.0	41.9	50.0	51.2
実力テストを年に数回行う	51.1	48.2	45.0	41.7	39.2	47.3	45.7	52.8
運動部は楽しい部へ変え ていく	57.9	53.8	50.4	59.5	47.4	57.9	47.8	63.8
進学のための補習教育を する	65.6	66.4	67.7	72.6	71.2	69.4	62.5	53.4

「とても」+「かなり」賛成の割合

表30 教育観

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	小計	あまり そう思わない	まったく そう思わない
地域の教育力は低下している	17.7	46.3	64.0	34.3	1.7
子どもたちの先生への信頼感 が低下している	17.5	50.1	67.6	29.7	2.7
学校は生徒指導にも力を入れ てほしい	21.5	57.6	79.1	19.1	1.8
親の愛情不足が非行へ走らせる	32.2	48.0	80.2	17.8	2.0
子どものしつけのできない家 庭が多い	30.3	53.4	83.7	15.4	0.9
しつけは家庭の仕事である	56.0	38.9	94.9	4.6	0.5

○は最大値

3 . 学校への参加 D D D

P T Aへの参加は表31のように、中学になると、役員になっていない人が68.9%に

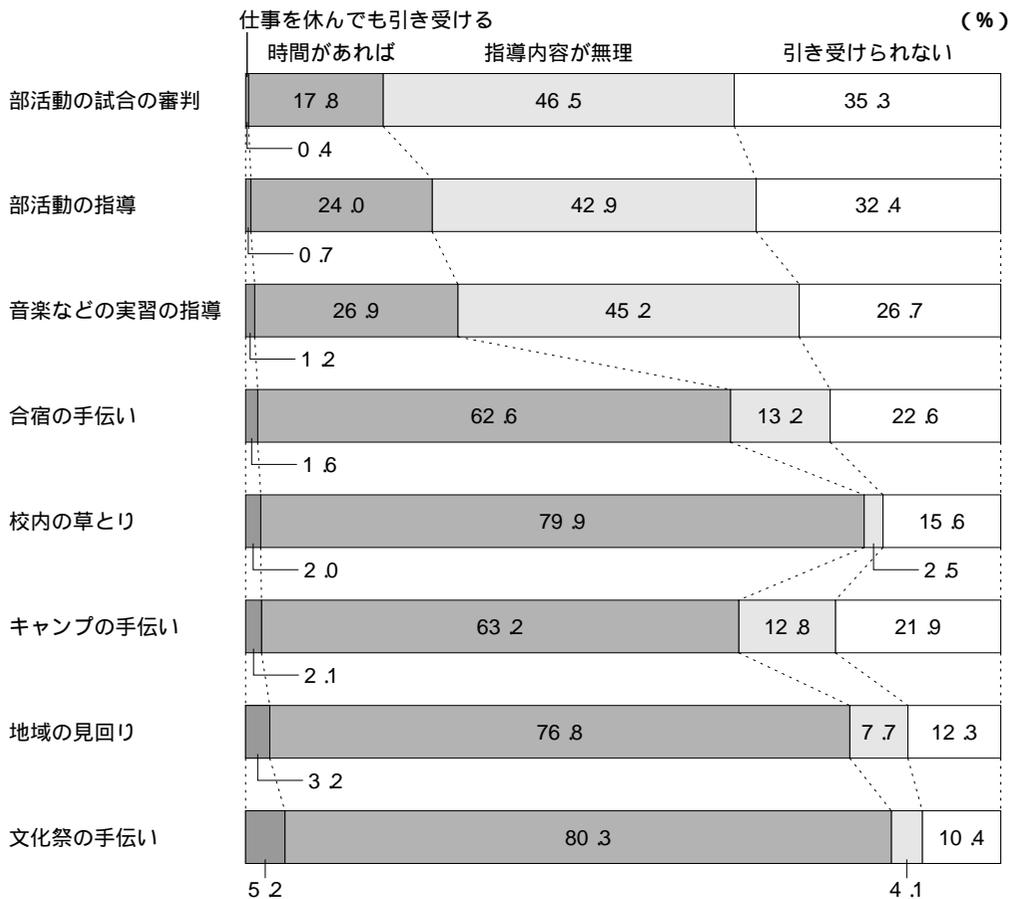
達する。

なお、学校の活動に参加するかは図8（表

表31 P T Aの役員

	(%)		
	学校の役員	学級の役員	していない
小学生の頃	20.5	57.8	21.7
現在	10.4	20.7	68.9

図8 学校への参加



32) から明らかなように、「仕事を休んでも引き受ける」のは「文化祭の手伝い」であるが5%にとどまる。その他は、「指導内容が無理」や「時間があれば」などを理由とした消極的な参加が半数を超える。

全体的に、学校とかかわりたくないと思っ

ている親が多いが、そうした中で学校の仕事を手伝ってよいと考えている属性を拾い上げると、表33のように、仕事別では専業主婦、学歴別では4大卒が学校の仕事にかかわってもよいと考えている。

表32 学校への参加 時間があれば

(%)

	仕事を休んでも引き受ける	時間があれば	小計	指導内容が無理	引き受けられない
部活動の指導	0.7	24.0	24.7	42.9	32.4
部活動の試合の審判	0.4	17.8	18.2	46.5	35.3
校内の草とり	2.0	79.9	81.9	2.5	15.6
音楽などの実習の指導	1.2	26.9	28.1	45.2	26.7
合宿の手伝い	1.6	62.6	64.2	13.2	22.6
キャンプの手伝い	2.1	63.2	65.3	12.8	21.9
地域の見回り	3.2	76.8	80.0	7.7	12.3
文化祭の手伝い	5.2	80.3	85.5	4.1	10.4

○は最大値

表33 学校への参加 × 母親の属性 専業主婦と4大卒

(%)

	仕事				学歴			
	フルタイム	パートタイム	専業主婦	自営業	中学卒	高校卒	短大卒	4大卒
部活動の指導	17.3	25.2	28.6	25.3	27.1	22.3	24.9	27.3
音楽などの実習の指導	21.0	27.3	35.9	29.4	28.9	26.7	27.1	30.3
合宿の手伝い	48.3	59.6	71.6	66.1	65.3	61.3	63.7	66.5
キャンプの手伝い	53.6	60.1	69.7	66.0	61.3	63.7	65.8	67.1

「仕事を休んでも引き受ける」+「時間があれば」の割合

保護者の皆さまへ

アンケートのお願い

このアンケートは、中学生を持つ保護者の皆さまが日頃持たれている教育についてのお考えをうかがうために作られたものです。

お忙しいところをお手数をおかけしますが、よろしくご協力くださいますようお願い申し上げます。

このお答えは、無記名でかつ封筒に厳封された形で集め、すべて統計的に処理をいたしますので、あなたや学校に対してご迷惑のかかるようなことは一切ございません。

((回答のしかた)) 特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけ をつけてください。

(単位：パーセント)

I. まず、お聞きします。

① この調査にお答えくださるのは、お父さん、お母さんのどちらですか。

1. お父さん	2. お母さん	3. その他 ()
9.0	90.4	0.6

② あなたには、お子さんが何人いらっしゃいますか。

1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人以上
8.2	59.0	28.1	3.2	1.5

③ この調査票を持ち帰られたお子さんは、何番目の方ですか。

1. 第1子	2. 第2子	3. 第3子	4. 第4子	5. その他
48.2	38.8	11.3	1.0	0.7

④ あなたはPTAの役員などをしていますか。

	したことは ない	学級の役員を した	学校の役員を した
1. お子さんが小学生の頃.....	21.7	57.8	20.5

	していない	学級の役員を している	学校の役員を している
2. 現在	68.9	20.7	10.4

⑤ あなたはお子さんの授業参観にどんな気持ちで行っていますか。

1～4のうち、あなたの気持ちに近いものに をつけてください。

1. 楽しみに出席している	70.2
2. 行きたくないが、仕方なく出席している	11.1
3. 出席したいが、仕事の関係で行けない	16.6
4. 行きたくないなので出席しない	2.1

Ⅱ．次に、この調査票を持ち帰られたお子さんについて、お聞きします。

⑥ あなたのお子さんは、次のようなことを自分でやっていますか。

	いつも親が している	ほとんど親だが たまに自分でする	ほとんど自分だが たまに親がしている	いつも 自分でする
1．机の上のかたづけ	3.6	17.1	32.8	46.5
2．部屋の掃除	30.3	35.1	21.5	13.1
3．自分の食器の後かたづけ	23.4	30.9	17.3	28.4
4．自分の下着の洗濯	82.3	11.8	2.7	3.2
5．運動着の洗濯	86.4	10.1	1.6	1.9
6．制服の手入れ（ボタンつけや ほころび直しなど）.....	74.1	15.8	5.9	4.2
7．ふとんのあげおろし	25.9	25.1	19.3	29.7

⑦ あなたから見て、お子さんはこれまでのところ思い通りに育っていますか。

	とても 順調に育った	かなり 順調に育った	あまり 思い通りでない	ぜんぜん 思い通りでない
1．健康の面で	43.1	44.6	11.4	0.9
2．学力の面で	10.7	39.3	42.3	7.7
3．しつけの面で	13.4	49.7	33.1	3.8
4．人への思いやりや、やさしさ の面で	34.8	48.6	15.1	1.5
5．やる気（バイタリティー）の 面で	14.6	38.0	41.2	6.2
6．全体として	12.4	58.2	27.9	1.5

資料 調査票見本および集計結果

⑧ お子さんを、どの学校まで進学させたいと思っていますか。

1. 中学まで	2. 高校まで	3. 短大・専門学校まで
0.1	19.2	23.7
4. ふつうくらいの大学まで	5. 入るのがむずかしい大学まで	
45.8	5.5	
6. 大学院まで	7. その他	
1.9	3.8	

⑨ あなたから見て、お子さんはどんな子ですか。それぞれについて教えてください。

	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
1. 何ごとにも積極的に取り組む	8.0	31.6	36.3	20.6	3.5
2. こつこつ勉強する	9.4	28.6	22.6	26.8	12.6
3. 校則はきちんと守る	35.7	45.4	12.2	5.2	1.5
4. スポーツが得意だ	20.3	31.6	25.4	15.2	7.5
5. 心がやさしい	35.8	49.3	12.1	2.3	0.5
6. 自分の将来について希望を持 っている	17.8	31.2	36.4	10.8	3.8
7. グループのリーダー格になれ る	7.7	21.3	37.0	23.5	10.5
8. 友だちづき合いがうまい	18.0	44.4	25.7	9.2	2.7

⑩ お子さんに対して、次のようなことがどの程度気にかかっていますか。

1. この先、非行に走るのではな いか	とても 心配	わりと 心配	あまり 心配でない	まったく 心配でない	
	2.2	12.9	58.2	26.7	
2. 希望の高校に行けないのでは ないか				行かせる つもりはない	
	16.4	37.1	38.4	8.1	0.0
3. 就職しても、長続きしないの ではないか					
	4.6	16.1	57.6	21.7	

	とても 心配	わりと 心配	あまり 心配でない	まったく 心配でない
4. 30歳になっても、結婚相手が見つからないのではないかと 3.6 — 11.3 — 60.5 — 24.6				
5. 幸せな家庭が築けないのではないかと 2.4 — 10.0 — 64.4 — 23.2				

Ⅲ. 次に、この調査票を持ち帰られたお子さんの通っている中学校や先生についてお聞きします。

11 お子さんは、今の中学校生活に満足していると思いますか。

とても満足している	わりと満足している	あまり満足していない	ぜんぜん満足していない
11.1	66.5	19.9	2.5

12 お子さんの通っている中学校は、どんなタイプの学校ですか。

	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
1. まじめな生徒が多い 5.8 — 48.3 — 34.6 — 9.2 — 2.1					
2. 部活動が盛んである 18.0 — 49.1 — 22.3 — 8.2 — 2.4					
3. 体育祭・文化祭などに力を入れている 19.0 — 43.6 — 28.1 — 7.7 — 1.6					
4. 受験指導に熱心である 7.3 — 35.4 — 46.9 — 8.8 — 1.6					
5. 生活指導に力を入れている 12.1 — 44.8 — 33.1 — 7.4 — 2.6					
6. ユニークな先生が多い 6.8 — 20.9 — 50.9 — 16.0 — 5.4					
7. 教える力のある先生が多い 5.0 — 24.2 — 51.6 — 14.9 — 4.3					
8. 教育に熱心な親が多い 6.1 — 31.4 — 51.4 — 9.1 — 2.0					

13 お子さんは、学校の授業をどのくらい理解できていると思いますか。

あてはまるところに をつけてください。

	100%理解 できている	70%くらい理解 できている	半分くらい理解 できている	30%くらい理解 できている	ほとんど理解 できていない
1. 英語の授業 8.6 — 37.2 — 29.7 — 17.5 — 7.0					
2. 数学の授業 7.4 — 37.3 — 31.9 — 17.2 — 6.2					
3. 国語の授業 6.9 — 43.2 — 35.2 — 11.4 — 3.3					

資料 調査票見本および集計結果

14 お子さんの担任の先生は、どんな先生ですか。

	とても そう思う	わりと そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない	よく わからない
1. クラスをまとめるのがうまい ...	12.9	47.2	22.2	4.2	13.5
2. 子どもたちの気持ちをわかっ てくれる.....	12.4	50.0	20.6	4.2	12.8
3. 授業に熱心である	16.3	54.8	13.9	2.2	12.8
4. 部活動の指導に熱心である.....	14.3	37.5	20.7	3.0	24.5
5. きまりを守らないと厳しくし かる	17.3	39.0	26.1	4.5	13.1
6. 親の話を聞いてくれる	17.3	54.1	14.7	1.8	12.1

15 あなたは学校の先生の次のような行動について、どうお感じですか。

	とても そう思う	かなり そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜん そう思わない
1. 教師は競馬・競輪などの賭けご とをするべきではない.....	6.6	8.6	23.0	44.5	17.3
2. 教師はパチンコをするべきで はない.....	3.7	5.2	15.6	52.6	22.9
3. 教師はマンガを読むべきでは ない	1.1	1.8	6.0	54.1	37.0
4. 教師はアルバイトをするべき ではない.....	23.7	16.9	25.4	24.7	9.3
5. 教師は離婚をするべきではな い	3.3	3.3	9.1	43.5	40.8
6. 教師はきちんとした服装をす るべきだ.....	13.7	14.8	34.5	24.8	12.2

16 中学校の先生を見ていて、先生たちは次のようなことをどのくらい感じていると思いますか。

	とても 感じている	かなり 感じている	あまり 感じていない	まったく 感じていない	わから ない
1. 年間の授業時間が足りない	15.6	41.6	20.4	2.3	20.1
2. 生徒が騒々しくて、授業を中 断させられる	8.3	23.1	40.2	7.1	21.3
3. 生徒がしらけている	8.3	27.6	36.5	5.9	21.7

4. 生徒の学力の差が大きくて、 授業がやりにくい	とても 感じている	7.7	——	かなり 感じている	33.1	——	あまり 感じていない	32.1	——	まったく 感じていない	3.1	——	わからない	24.0
5. 提出物や宿題を忘れる生徒が 多い		12.8	——		40.6	——		22.5	——		1.3	——		22.8
6. 問題をかかえる生徒に手を焼 いている		13.5	——		25.9	——		32.5	——		3.3	——		24.8
7. 部活動の指導が負担だ		6.5	——		21.3	——		34.9	——		6.2	——		31.1
8. 授業以外の仕事が多すぎる		11.0	——		27.5	——		23.5	——		4.2	——		33.8
9. 教師という職業は自分に向い ていない		2.2	——		5.6	——		38.3	——		8.6	——		45.3

IV. もう少し中学校のことをお聞きします。

17 学校のきまりにもいろいろありますが、もし次のようなことがお子さんの中学校のきまりだとしたら、あなたはどのように思いますか。(お子さんの性別に関係なく、1~10の質問すべてに答えてください)

1. 男子は頭髪を丸刈りにするこ と(または、2センチ以上の ばさないこと).....	中学生として 当然必要な きまりだと思う	3.5	——	あまり意味のない きまりだが、いちおう 守るべきだと思う	27.5	——	あまり意味のない きまりだから、守らな くてもよいと思う	15.7	——	こんなきまりは なくすべきだと思 う	53.3
2. 女子の髪の長さは肩にふれない 長さ。それ以上になったらゴム でしばるか、三つ編みにする.....		21.3	——		39.0	——		15.0	——		24.7
3. 女子の髪をしばるゴムは、黒 以外の色は使わない		11.0	——		36.0	——		19.4	——		33.6
4. 髪を染めてはいけない		78.8	——		13.6	——		3.3	——		4.3
5. 男子はつめえりのホックをき ちんととめること		37.0	——		41.1	——		13.1	——		8.8
6. 男子のワイシャツは白のみ		54.6	——		33.4	——		5.2	——		6.8
7. 通学カバンにワッペンをはっ たり、落書きをしない		40.3	——		38.3	——		11.4	——		10.0

資料 調査票見本および集計結果

		中学生として 当然必要な きまりだと思ふ	あまり意味のない きまりだが、いちおう 守るべきだと思ふ	あまり意味のない きまりだから、守らな くてもよいと思ふ	こんなきまりは なくすべきだと思ふ
8. 登校は始業時刻の5分前までに	...	84.7	11.7	1.7	1.9
9. 下校時刻すぎまで学校に残る ときは、担任か係の先生の許 可証が必要	56.1	30.8	7.6	5.5
10. 職員室に入るときは、一礼し てから入る	76.7	16.5	3.8	3.0

18 いじめの問題について、おたずねします。

1. お子さんの通う中学校で、いじめがあるとお感じですか。

とても あると思ふ	かなり あると思ふ	あまり ないと思ふ	まったく ないと思ふ
5.2	27.7	64.8	2.3

2. お子さんが誰かにいじめられているのではと、心配になることがありますか。

とても 心配	かなり 心配	あまり心配 していない	まったく心配 していない
5.2	16.8	59.5	18.5

3. お子さんが誰かをいじているのではと、不安になることがありますか。

とても 不安	かなり 不安	あまり 不安でない	まったく 不安でない
2.2	6.5	53.6	37.7

19 あなたは、中学校で以下のような試みが始まることになったら、賛成しますか、それとも反対ですか。

1. 学校での部活動をやめ、地域 で行うようにする	とても 賛成	かなり 賛成	どちらでも ない	かなり 反対	とても 反対
		2.8	4.8	33.4	32.7	26.3
2. 学力をつけるために実力テス トを年に数回行う	13.3	32.9	41.6	7.8	4.4
3. 修学旅行や文化祭をやめる	1.4	0.8	12.7	33.6	51.5
4. 市内ならどの中学へ入学して もよい	22.5	21.9	36.1	11.2	8.3
5. 学力に応じて学級を分ける	2.3	8.2	20.7	25.5	43.3

資料 調査票見本および集計結果

	とても 賛成	かなり 賛成	どちらでも ない	かなり 反対	とても 反対
6. 高校進学のために補習教育を する.....	27.7	39.3	25.5	3.6	3.9
7. 制服や持ち物などの規定を廃 止する.....	5.9	10.2	32.7	33.4	17.8
8. 運動部は、強くなくても楽しい 部へ変えていく.....	23.8	31.2	34.1	8.6	2.3

㊦ 次のようなことをお子さんは、どのくらい悪いことだと思っているでしょうか。

	ぜんぜん 悪くないと 思っている	あまり 悪くないと 思っている	少し 悪いと 思っている	かなり 悪いと 思っている	とても 悪いと 思っている
1. バスや電車で子ども料金で乗 る.....	4.2	10.8	41.4	24.5	19.1
2. 自転車の二人乗りをする	7.4	19.7	40.6	19.0	13.3
3. 夜、友だちの家に集まってお しゃべりをする	5.0	17.1	31.5	25.2	21.2
4. カギをかけずに道に放ってあ る他人の自転車に乗る	0.6	0.6	2.7	17.3	78.8
5. かるくパーマをかける	2.8	8.2	19.1	25.6	44.3
6. 友だちの優勝を祝ってお酒を 飲む	0.8	1.1	5.5	14.5	78.1
7. 人に迷惑をかけないように、 自分の部屋でタバコをすう	1.1	0.9	4.2	13.9	79.9
8. スポンの幅やスカートの丈をきま りより少し変えて学校へ行く	3.0	10.4	25.4	24.5	36.7
9. うすいまニキュアやリップクリー ムなどをつけて学校へ行く	5.4	9.1	25.8	21.5	38.2

㊦ あなたは教育やしつけに関して、どのような考えをお持ちですか。

	とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1. 子どものしつけは学校ではな く、家庭の仕事である	56.0	38.9	4.6	0.5
2. 非行に走るのは、親の愛情が 欠けているためである	32.2	48.0	17.8	2.0
3. 学校は生徒指導にも力を入れ てほしい.....	21.5	57.6	19.1	1.8

資料 調査票見本および集計結果

	とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
4. 子どもたちの先生に対する信頼感が低下している	17.5	50.1	29.7	2.7
5. 地域の教育力は低下している ...	17.7	46.3	34.3	1.7
6. 子どものしつけのできない家庭が多い.....	30.3	53.4	15.4	0.9

㉒ あなたは、お子さんの通う中学校から次のようなことを頼まれたら、引き受けませんか。

	仕事を休んでも 引き受ける	時間があれば 引き受けてもよい	指導内容が 自分には無理	引き受け られない
1. 部活動の指導	0.7	24.0	42.9	32.4
2. 部活動の試合の審判	0.4	17.8	46.5	35.3
3. 校内の草とりや大掃除	2.0	79.9	2.5	15.6
4. 音楽や美術、技術・家庭科の 実習などの指導	1.2	26.9	45.2	26.7
5. 部活動の合宿などの手伝い	1.6	62.6	13.2	22.6
6. キャンプなどの手伝い	2.1	63.2	12.8	21.9
7. 生徒指導のための地域の見回り.....	3.2	76.8	7.7	12.3
8. 文化祭のバザーや喫茶などの 手伝い	5.2	80.3	4.1	10.4

㉓ お子さんは、これからどんな人生を歩みそうですか。

	ぜったい 可能	たぶん 可能	たぶん むずかしい	まったく 無理
1. 望み通りの高校へ入れる	5.3	60.8	31.9	2.0
2. 望み通りの大学へ入れる	2.4	38.5	46.6	12.5
3. 自分を生かせる仕事につく	4.9	64.5	29.7	0.9
4. よい相手と結婚できる	6.4	77.1	15.8	0.7
5. 幸せな家庭を作る	8.6	81.5	9.3	0.6
6. 社会的に大きな活躍をする	3.1	36.6	53.9	6.4

㉔ あなたは同性の同じ年齢の人と比べ、自分をどんなタイプだと思いですか。

	とても そう	かなり そう	あまり そうでない	まったく そうでない
1. やる気がある	14.3	47.8	36.5	1.4
2. 体が丈夫.....	21.9	46.9	28.3	2.9
3. 好奇心がある	20.7	49.3	28.3	1.7
4. 社会問題に関心がある	14.4	43.3	38.7	3.6
5. 友だちが多い.....	18.2	43.8	34.5	3.5

このアンケート調査をより充実したものにするため、かさねがさね恐れ入りますが、よろしければ以下のことについてもお答えいただけますと、大変ありがたく思います。

㉕ お母さんは現在、お仕事についていらっしゃいますか。

1. フルタイムの仕事	19.0	2. パートタイムの仕事	41.1
3. 専業主婦	23.4	4. 自営業	12.0
5. 家事手伝い	0.8	6. その他	(3.7)

㉖ お父さんのなさっているお仕事は、次のどれにあたりますか。

1. 自営業	21.6	2. 公務員	7.6
3. 会社員	62.8	4. 医者・弁護士	0.6
5. 農林・漁業関係	0.5	6. その他	(6.9)

㉗ 最後に卒業された学校はどちらでしょうか。お父さん、お母さん、それぞれについて、あてはまる番号を〔 〕のなかに記入してください。

1. 中学校	2. 高等学校	3. 短大、あるいは高等専門学校
お父さん 9.6	44.5	9.3
お母さん (6.1)	(58.1)	(24.7)
4. 大学	5. 大学院	6. その他
33.7	1.9	1.0
(9.3)	(0.2)	(1.6)
お父さん.....〔 〕	お母さん.....〔 〕	

㉘ あなたは、教員免許状を持っていますか。

1. 持っている 9.6 2. 持っていない 90.4

㉙ あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。

1. 30歳以下	2. 31~35歳	3. 36~40歳	4. 41~45歳
0.3	4.4	29.7	44.3
5. 46~50歳	6. 51~55歳	7. 56~60歳	8. 61歳以上
18.0	3.1	0.0	0.2

~長い間、アンケートにご協力いただきまして本当にありがとうございました。
これですべて終わりです。~